

インターカレッジ・コンペティション 2018 概要版

大 学 名	大阪成蹊大学
指導教員	※学部・学科・職・氏名をご記入ください マネジメント学部・スポーツマネジメント学科・藤森梓
学生代表者	※学部・学科・学年・氏名をご記入ください マネジメント学部・スポーツマネジメント学科・土橋諒也
テーマ	※提案の内容や目的がわかる簡潔なタイトルにしてください。 関西 EXPLORER 計画 ーAR 活用を通じたプロモーションー
概 要	<p>※提案の概要をまとめてください。</p> <p>WMG 開催期間中に、より消費活動をしてもらうにはどうすればよいのか。またその妨げになる問題はなにか。挙げられる問題としては、「路線が複雑」。大阪や京都など、開催地付近の路線は複雑であり、地元住民ですら迷子になるほどであること。「人が多い」、「車での移動が困難」、「レンタサイクルがあまりない」、などが挙げられる。まとめると、道が複雑かつ混雑しやすい状況であるということだ。</p> <p>それらを解消するために、「AR 技術を用いたサポートアプリをスマートグラスやスマートフォン向けに配信する」というものだ。アプリの具体的な内容は、位置情報に合わせた目的地への最速ルートの検索、混雑している路線を回避し目的地に行くルートの検索。この2つがメインの機能である。また、AR 技術を用いて、視界に入ったお店(グルメ)の宣伝や、観光名所の紹介などを行う。AR を利用したアプリの代表であるポケモン GO にならって、クーポンを獲得できるミニゲームの実装なども行う。</p> <p>位置情報によるルート検索機能は、迷子防止や混雑を解消し快適に街を歩けるようにするだけでなく、地元住民への迷惑を和らげる効果が期待される。AR 技術を用いたグルメや観光名所の宣伝は、利用者を目移りさせ、消費活動を促すだけでなく、そのお店からの広告収入も見込める。ミニゲームは、クーポンを取得するためにさらに街を歩いてもらうことで、さらなる消費活動を促すのが狙いだ。</p> <p>この提案内容の問題は、2021年までに AR 技術がここまで普及しているのか、アプリ政策にかかる費用が未知数である、ながらスマホが増えてしまうなどが挙げられる。</p>